

加茂里山通信

平成18年
秋号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集
発行責任者 大曾根友三
編集長 佐久間眞明

里見小の田んぼは豊作だ

里見小5年生 僕らの米が出来た



9月25日、里見小が待ちに待った稲刈りの日がやってきました。心配された台風も東に逸れ、時折日も射す絶好の稲刈り日和になりました。

やはり生徒達は待ちきれないようで、予定していた9時より前から刈り取りが始まりました。田植えの時お世話になった仲川さんの指導により、皆る気満々です。

子供達とはいえ10人近くで刈るとあつと言つ間にはかどつて行きます。刈り取りと稲を束ねるのに1時間程で終わってしまいました。

今日は「刈り取る」作業を楽しみにしていた子供達でしたが、稲の束ね方や置き方、更に束ねた後に落とした稲が無いかの確認など、細かい作業も指導を受け真剣に作業していました。

当初、刈り取った稲は「オダ掛け」と称し、学校のフェンスに掛けて天日干しをする予定でしたが、天気予報が翌日から雨の為コンバインを使い早速稲こかしです。収穫したものは手すりりヤカーでいざ学校へ。その後「むしろ」に広げて干し、乾燥しました。

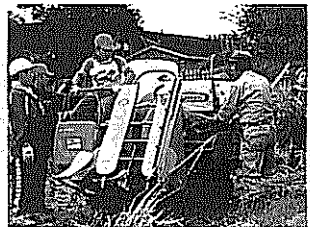


たわねに実った稲穂。上々の出来です

子供達もよく頑張りました。このもち米は12月のマラソン大会で豚汁と一緒にのし餅や磯辺巻などにして食べられるそうです。待ち遠しいですね。

来年は高滝・里見・白鳥の各小学校の米作りを3元レポートする予定です。お楽しみに。(佐久間山通信員)

稲刈り中、田んぼの脇にコンバインが置いてあるのを男の子達は「ソワソワ」「ワクワク」。仲川さんのお許しを得て乗せてもらった男の子は「眺めが良くてとても気持ち良かった」と満面の笑みで頼もしいコメントをくれました。



コンバイン初体験!

子供達が自分達の米作りの経験と喜びをずっと忘れないでいて欲しいですね。

お詫び・前号で里見小の米作りが今年初めてのように書きましたが、実はすでに6年余も前から続いているそうです。里見小の皆様や関係者の方々には大変失礼いたしました。紙面にてお詫び申し上げます。

あ、何キロ取れたぞい

10月3日、ついに「もみすり」が行われ、もち米となつて出来上がりしました。前号で出した収穫量クイズの答えが出ました。「84・5kg」です。皆さんの予想はいかがでしたか? 2畝歩の小さな田んぼにしては充分な収穫量だったと思います。

里見小に集った仲間たち

今年で3回目となった「楽器挫折者救済会」の月出小学校は天候に恵まれ、14名の参加者は月出、高滝で充実した三日間を過ごすことができました。

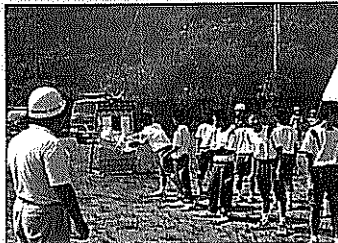
今年から宿泊と夜間練習場をお願いした加茂城旅館さんでは、二泊とも貸し切りで使わせて頂いたうえ、打ち上げのバーベキューまで手伝ってもらいました。忙しい中三日間、参加者の送迎を担当してくれた田淵の鈴木さん。朝生原の丸美屋さん、二日間味噌汁つきのお弁当を配達してくれました。美味しい房州名物の太巻き寿司を差入れしてくださった横山さん。バーベキューの段取りから飲み物の販売まで手配してくれた朝生原の角屋商店さん。三日間会場管理に当たって頂いた里見小の東田校長先生、一緒に校庭の草取りから体育館の掃除までして下さった黒沼前校長先生。会場使用に同意して頂いた月出の中村町会長。毎回、丁寧な取材をしてくれている千葉日報の林さん。告知記事を掲載してくれた大先輩「伝心柱」紙。会場の使用許可にあたり尽力頂いた市原市関係各課の皆さん。そして、三日間一緒に過ごしてくれた千里ちゃんとお翔太君。

これら多くの方の理解と協力があったはじめて実施が可能となりました。ありがとうございます。(北里山通信員)



年に一度の月出合宿を「里帰り」するみたいみんな楽しみにしています(後列左端が企画指導されているミュージシャンの「きりぼやしひろき」さん)

合同防災訓練に参加して



毎年9月最初の日曜日に開催されている市原市総合防災訓練のメイン会場が今年は加茂地区ということで九月三日に加茂中学校が開催されました。

当日はあまりに見事な晴天。そこで帽子と首タオルという必需品

を身につけ町会のメンバーと集合場所の支所に行くと、十五分前というのに同じようなスタイルの人たちが大方集まっていた。八時半になると避難訓練ということで加茂中学校へ移動。この日各町会や学校等から動員されたのは八百人弱。九時十五分前には国体の開会式のように整列したもののすぐには始まらない。私の後方から「早く始めよう」と三度ほど大きな声が上がった。近くの女性のなかにはグラウンドの草取りを始める人も。九時より挨拶に続いて始まった訓練はバケツリレーによる消火訓練。消火器を使った消火訓練、それに救護訓練でした。これに各自好きなところへ参加というスタイルで約三十分間の訓練。私たちの参加した訓練はこれだけでした。(昨年高滝小学校で行われた防災訓練はすべての訓練を順に体験するというもので、学ぶことの多いものでした。あとは自衛隊や建築組合やその他の各種団体の演習を元の位置で立つたまま見たりするといったものでした。これが一時間半。

首都直下型地震の今後三十年以内におこる可能性は七十パーセントと政府や学者がはっきりと述べている現在、この防災訓練は本当に必要なことだと思えます。できることなら年一回くらいやってもいいのではないかと思います。その理由の一つは何度も訓練することで慣れをつくり、実際に起こった場合にパニックに陥らず冷静に対処できると思えるからです。この訓練の必要性は多くの人の認めるところでしょう。

ですから今後のために「二点ほど考慮していただきたいことがあります。」

一つは年配者や小さい子もいたのに炎天下で一時間半も立たせるようなことがないように、あらかじめ腰をおろしてみる場所を決めておくなどの指示や配慮がほしいこと。(役員席には椅子が用意され、同じ一時間半を座ってみていたのですか

消防わくわく広場に集まれ

昨年大盛況の消防わくわく広場が、今年も十一月五日(日)に高滝小学校で開催されます。いつも近所でお顔をみのお兄さんやお父さんの消防団員の方たちが、楽しい模擬店や催し物を用意して待っています。消防車に乗れたり、放水体験もできますよ! 家族みんなを遊びに来てね!

もう一つは九月最初の日曜日というのはこの加茂地区にとつて稲刈りの真っ最中。普段サラリーマンをやっている人間も稲刈りにいそいそときます。天災はいつ何時来るかわからないのですから、防災訓練もいつてもいいはず。地区事情を考慮していただければ加茂地区の人間は大いに助かりますし、考慮してくれたことに對しては律儀なほど協力するものが加茂の人達です。

この二点は当日一般参加として各町会などから動員された多くの人達が感じたことだと思います。(征矢里山通信員)



送迎用マイクロバス有り

無料駐車場有り

インターネット
自動予約システム
<http://www.marinehotel.jp>
宴会・会議室
大・中・小宴会場
新年会・忘年会・歓送迎会
慶事・法事・展示会
研修会・講演会・・・等
御宴会・宿泊割引パックもあります。

加茂のソウルフード

映画「UDON」

「映画」この言葉にピンときた人は映画「UDON」を見たか、「恐るべきさぬきうどん」の本を読んだか、あるいはその両方でしょう。

プロデューサー亀山千広(「ビーチボーイズ」「スウィングガールズ」)、監督本広克行(「スペーストラベラーズ」「サトラレ」といえば「踊る大捜査線」)。その二人が作る映画が面白くない訳がなく、「うどん」という食をテーマにしたこの映画は一つの家族を描く映画になっていて、笑いがあふれ、シリアスな場面があり、意外な展開がある傑作です。(この映画に登場するうどん屋はただ一軒をのぞきすべて実在するうどん屋です。その一軒というのは主人公の実家の松井製麺所で、そのセッとは見事です)

麵通団は讃岐うどんの一大ブームを作ってきたわけとなったタウン情報誌のメンバーを中心とした讃岐うどん取材グループの名称です。香川県内には七百店くらいうどんを出すところがあるという事です。彼らは県内の人間も把握していない「恐るべきさぬきうどん」を出す店を、香川の言葉で、まるでうわさ話のように紹介して行つてみたいという意欲をかきたてました。それが全国へ飛び火して、県外からも一玉百円のうどんを食べにやってくるような現象を起こしてしまつたのです。これはこの辺でもラーメン店などに聞いていると思いますが、あそこラーメンがうまいという話があれば多少遠くても行つてみたいというのが人の常です。

今ほどのラーメンブームがくるのはか前に、竹岡にうまいラーメン店があるという話がありました。今の竹岡ラーメンの原点となる店で、その昔寄つたことがあります。(今も当時のままのこと)ごく一般的な大衆食堂的なたたずまいで店内もせまくメニューも至って簡単。しかしそのラーメンはおそろし。恐るべきラーメンを食べたらどうしてもほかの誰かに告げたいくなるのもまた人の常。こうしてうまい店の情報は次から次へと人に伝わり、店を探しながらなんとかたどり着く。そこで食べる。そして絶



ソウルフードとは?

ところでこの映画の中で情報誌の編集長がうどんに關して一つのうんちくを語るシーンがあるのですが、そこにソウルフードという言葉が登場します。それは瀬戸大橋ができる以前の連絡船の中での話です。「たいしてうまくも何ともないうどんなのに、ここから出て行く時、また帰ってくる時、連絡船の中で食べるうどんにはふるさとがする。それはおなかにも満たされるソウルフードではないか。」

「行つてきます」「ただいま」のようないいさつみだいなものだったんだなあ」というものです。

私たちにとってというよりもこの加茂の人間にとつてのソウルフードとは何かとその時思いました。信州戸隠に行けばそば屋だらけだし、喜多方に行けば街中至る所にラーメン屋があるという状況ですが、そんなところは日本中にくつもある訳ではなく、ほとんどはごくありふれた、これといった特徴もないところではないかと思ひます。

「行つてきます」「ただいま」のようないいさつみだいな食を提供する店はあるのか。そういううまいものは記憶として刻まれます。おなかにも満たしてくれるうまい食を提供してくれような所はあるのでしょうか。

せがれや娘が帰ってきたら

ところでペッペ語講座担当の戸沢通信員は川口屋という魚屋をやっていますが、彼によれば祭りや花火以外で一般的な家庭が刺身の盛り合わせをとるのは、外に出たせがれや娘が帰ってきた時などが多いとのこと。『せつかく帰ってくるんだからうまいものを食わしてやろう』という親心は共通していて、とりあえずは刺身というのがパターンとのこと。そういう親は勿論「いいものを持ってきてくれ」となる訳で、

店はその期待に応えなければいけない。お心当たりの方も多いのではないだろうか。田舎に帰ってきたせがれや娘にとって、実家で食べる刺身は少しづつ記憶に刻まれていくことでしょう。刺身などどこにでもあるものの、刺身の組み合わせ、盛りつけ、飾りなど、川口屋の刺身の盛りは田舎に帰ってきたなあと思わせるものとなつていくでしょう。

ソウルフードとなるべく

加茂地区には遠方からも食へにやってくるお客さんのいる手打ちのそば屋さんがあります。田舎にあつて活魚をさばいて出してくれる店があります。本格的な焼くパン屋さんがあります。シヤリの絶妙なうまさを持つ握り寿司の店や手巻き寿司の店があります。それぞれが地域としてのソウルフードではなくても個々におけるソウルフードとなりつつあるのではないのでしょうか。田舎のあの店のあの品が食べたいたい。ここから出て行っている人間に思わせるような品をいつも提供すること。それは不断の努力と工夫と知恵が必要ですが、食べ物屋にとつて、すべてはお客さんの「おいしかった」の一言で報われるものです。

遠くからでもその食を目指して人がやってくるような店が一つずつ増えれば、たとえ里山にぽつんぽつんと店が点在していても食の地域としての存在感は高まるでしょう。記憶される食の絶対条件はうまいこと。うまければ人は遠くからでもやってくる。それはうどんやラーメンに限らずあらゆる事例の示すところ。 (征矢里山通信員)

昨年以上の輪が広がった花プロジェクト



＊ちばDC:「ちばステイション」キャンペーン」の略。千葉県内一斉の観光キャンペーンで来年2月から4月までの3ヶ月間にわたつて実施されます。このちばDCは、千葉県がJR6社とタイアップして集約的に千葉県をPRし、日本全国から多くの観光客の皆さんをお迎えしようとするものです。「そうだと京都(へ行く)」で有名な新幹線の「コマース」があり、それが「ちばステイション」に代わるような感じと思つてくださ。効果の予想として、たとえば勝浦で最近話題の「ビッグひな祭り」だと今年の来客が26万人だったそうですが来年は50万人を越えるのではないかとわけています。 (大曾根里山通信員)

花プロジェクト

花プロジェクトは、小湊鉄道の駅周辺を中心として線路沿線を菜の花でいっぱいしようとの市の役所の呼びかけで、昨年から始められた。市原市を縦断する小湊鉄道の観光活性化対策として始まったわけだが、特に来年の2月から4月までは「ちばDC」(※注)という観光キャンペーンも控えているため効果のほどが期待されている。

今年は9月30日に駅周辺の作業が行われた。広報いちばらでイベントを知った市民を始め、参加者は186名。牛久の「南いちばら花いっぱい運動実行委員会」がミニバスと空手教室の子供たちにも参加を募つて、佐和池和田の線路沿いと鶴舞駅を担当。久保から上総大久保までの加茂地区内各駅では、高滝駅を「写真クラブ」。里見駅「市職員と一般参加者」。飯給駅「市原ルネッサンス」。月崎駅「あゆみ会」。上総大久保駅「加茂里づくりの会」などが担当。参加者は作業のあと養老溪谷駅に集合して炊きたての新米と豚汁を味わった。

市では道路沿線の菜の花プロジェクトを進めたい意向で、加茂地区の町会長さんにも協力をお願いした模様。10月15日には高滝周辺で作業が行われるとのこと。(締め切り後の取材ができない)他の地区でもたぶん多くの方が参加されることだろう。地域の善意の集まりが来春の加茂地区を黄色く色づけてくれることに大いに期待したい。

がんばれ！青年団

大戸大青年会

会長 原 幸一 会員数 17名
大戸大青年会は平成元年ころ消防団OBが集まり「ボランティア活動がなくなり寂しいな」との語が出て、青年会を作ろうという事になったもので名称は大戸の大、青年会の青をとり大青年会(たいせいかい)とした。

当時の活動は、地域の中で木々が道路を覆いつくしたところの伐採や草刈りが主でその後地域の皆さんが喜んでもらえる活動として盆踊りを開催。そして、親睦を兼ねた旅行(北海道、金沢、関東近郊など)や投網打ちとバーベキューを毎年一回実施していた。会員に棟梁が2人いたことから盆踊りのやぐら、子供みこしを作成していた。盆踊りについては、最近までやっていたが、少子高齢化の波を受け中止。代りに2年前から大戸夕涼み会として多目的会館で大戸の町会の人たちを対象に実施。内容は、盆踊り、カラオケ、そば打ち、抽選会などで親睦を図る。

現在は、若者が都会へ出てしまひ会員の高齢化も進み、会員が徐々に減る一方、旅行だけは続けようとして頑張っているところである。一方今年は「神社大鳥居のしめ縄ない」をやつて技術継承をしていこうという声も出ている。また、里見地区恒例の「青年会対抗ソフトボール(バレーボール)大会」(今年は、10月29日(日)の予定)に毎年参加している。

(原 幸一 会長)

大戸夕涼み会



老若男女が集まる賑やかな夕涼み会
なぜか親戚の宴会の様に見える

いよいよ加茂バス走る?

生活の足はどうなる?

バスは走るのか?

前回の夏号ではこれまでの経過を報告し、最後に「小湊鉄道さんのプロの知恵を拝借しよう」として「と書かせて頂きました。この秋には調査のための試験運行として実際にバスを走らせてみる予定で検討を進めていました。概算ではありますが予算案も作り役所の補助金要綱も検討済みでしたのでミニユニティバスの試験運行実現と思っていまして、もう少し時間がかかりそうです。」

8月29日に小湊鉄道のかんり偉い役職の方とお会いすることもでき、市議会も終えた9月27日には佐久間市長さんに、委員会のメンバーでお願いする機会も得て、市役所としての考え方もお聞きしてきました。「走らせてみれば地域の理解も進む」と考えていた思慮の浅さも反省し、もう少し地区住民の方のお考えも聞きながら前向きに事を進めていくために時間を頂きたいと思っています。幸いにも町会長の説明をする機会をいただけたお話しもあり、加茂地区のまちづくりの一環としてミニユニティバスの必要性を支持してくれる方もたくさんいらっしゃいます。

加茂地区の子供たちは長距離の通学をしています。これから高齢者の方も増えることでしょう。地域のみんなが使える交通手段はとうしても無くしてはならないと考えています。予定よりも遅れています。が実現のために歩を進めていますのでもう少しお待ちください。



佐久間市長へ表敬訪問

そして、最近ちよつとはまっているのが、「お好み焼き&もんじゃ焼き」なのですが、この加茂地区にも美味いお好み焼きを食べられる処があるのです。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、里見小学校の反対側に「カヴォロ・ファミリーナ」(イタリア語です。)略して「キャベツと小麦粉」なんです。その中でも、カヴォロ特製お好み焼きは、「お好み焼き」というより「卵焼き」という感じで、お好み焼き

助健家車



加茂の車窓から

天高く皆肥ゆる秋

ある日、朝ごはんを食べていると、「コト、コロコロ」となにやら、我が家のトタン屋根の上から石ころが落ちてくる様な音がしました。これが、我が家での秋の到来の合図です。我が家の隣は山になっており、毎年この秋の到来を感じさせてくれる音、山栗が落ちてくるのです。空気が澄んで、空は高くなり、なんとなく早起きをして、得た気分になつてるのは私だけでしょうか?

秋といえば、「食欲の秋」、「スポーツの秋」、「読書の秋」、「ハロウィン」、「すいません、千早とう?」アツ、間違えました。あれは、「北国の春」でした。(※若い愛読者の皆さんすみません。里山通信編集員の平均年齢がちよつと高めのため、ダジャレの内容も、ちよつと高めに設定してあります。)

それぞれ思うことは違いますが、個人的には、秋といえば、やはり・・・スッスポー、スポーツした後の(言い訳?)食欲の「秋」でしょうか。というか、私の場合、現状(体重・約0.1トン)を維持する為に、一年間「食欲の秋」なのですが・・・(笑)

一般的によく、太りすぎは病気になるやういと言いますが、私の場合は痩せても、病気になるにやういやない、と言われたいと思つたので、回答に面倒なので、現状維持が良いのかな?と思つた今日この頃です。



カヴォロファミリーナのカフェ

はちよつと苦手という人でも結構いけると思います。そして他にも、ハスタやピッツア、チーズ、鉄板焼きなど、アルコール類もカクテル、ワイン、焼酎、ビールと多彩なメニューになっています。加茂地区のお父さん、お母さんが、昼間の田んぼや、畑仕事が終わった後に気楽に食事に行つてみて下さい。何を頼んだらいいかわからない時には、軽く声をかけると、経営者で調理をしている日野君が出てきて、すぐ丁寧に説明してくれて、お好みの料理を出してくれます。他にも日野君のお母さん、アルバイトで「近所の菜摘ちゃん」(いい名前です)ね。加茂地区らしくて!の3人で切り盛りしています。営業時間は午前十一時から午後九時までですが、終わりの時間はちよつと位過ぎて「日野君ごめんね!私、猫舌なんぞ!」といえ、いいですよ!ほくも猫舌なんぞ!という感じで、いつの間にか、みんな時間を忘れた「猫」になつてしまします。とてもうれしいことです。

加茂運動広場実現へ

一歩踏み出した
加茂運動広場建設

読者の皆さんの中には、かなり前から「加茂地区に運動広場を造る」という噂を耳にしていた方も多々いらっしゃると思います。それが今、確かな活動によって実現への道を着実に歩もうとしています。ここで現在の状況について、加茂地区町会会長に伺いました。

加茂地区町会会長

会長 奈良輪 雄彦

日頃、町会活動には、ご理解とご協力を頂き、まことにありがとうございます。私たちが加茂地区町会会長は、佐久間市長さんの言われる「市原でこそできるオンリーワンのまちづくり」を積極的に支え、「少子化から派生する学校問題」を取り上げた「研修会」の実施を皮切りに、地区の活性化につながる諸々の行事づくり、委員会活動に取り組みしております。

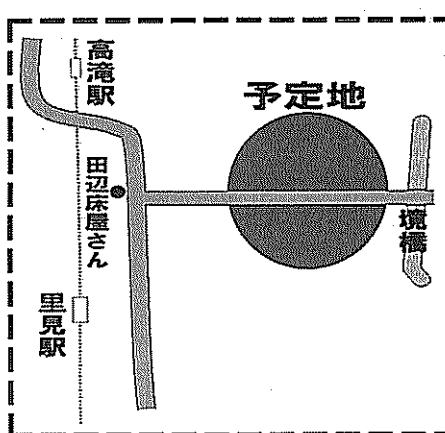
その重要な活動の一つに「加茂運動広場建設」問題があります。本件は、平成4年から始まる長い時間と多くの方々のご努力で進められてきたが、お陰さまで、ようやく平成18年9月5日に「建設に係る要望書」を市長さんに提出することができました。

ここまでの基礎を築かれた関係諸氏のご努力に厚く御礼申し上げます。しかし、具体的な建設はこれから始まります。今更確認する必要もないことですが、「加茂運動広場建設」は、これからの加茂地区のあり方を左右する重要な事項であります。

そこで、この紙面をお借りいたしまして、どんな経過でどんな内容の要望書を提出したのかを若干ですが報告させていただきます。多くの方のご理解を賜りたく思います。

加茂運動広場建設候補地が、本郷地先に決定しましたのは、平成18年1月です。その後、旧町会役員による何らかの準備委員会を経て、「建設促進委員会(原案)」がつくられ、6月に「建設促進委員会」が発足しました。「建設促進委員会」は、発足すると同時に各種

加茂運動広場建設候補地(本郷地先)



これから先、役員・関係者一同は、一日も早く、加茂地区の「夢の運動広場」の実現に努力してゆく所存ですが、皆様方のお力添えもよろしくお願いたします。



団体、地権者等々の要望をとりまとめ、「要望書作成」に取りかかりました。「要望書」づくりは、市原高滝湖マラソン大会、花火大会等の年間12・13回あるイベント行事への対応はもちろんのこと、市原市総合計画でうたわれている「加茂地区のまちづくり」を考慮いたしました。

特に本地区は「観光交流ゾーン」に位置づけられておりますので、単なる運動広場としてだけでなく、観光施設や園芸道を意識した地域活性化につながる計画を盛り込みました。また、地域の子供、老人、諸団体の憩える施設や訓練エリアも盛り込みました。そのために、運動広場として市から当初示された3haの敷地面積を大幅に超える要望になっていきます。ですので、この実現に当たっては、予算面だけを考えてもかなり難しい面があることが予想されます。

しかし、先祖伝来の貴重な土地を提供下さる地権者の方々も納得のいくものであり、また、市の総合計画「観光交流ゾーン」開発の重要拠点として加茂地域の活性化に迫るものにするには、要求項目の実現が必須だと考えます。

「市原でこそできるオンリーワンのまちづくり」政策の実現の一貫として市当局の積極的対応を強く望みたいと思っております。

近日中には、埋蔵文化財調査、測量が始まります。

加茂米くらぶ だより

この夏、久しぶりにテレビの前に釘付けにされた。夏の甲子園、高校野球である。早実と駒大苫小牧高校による決勝は、早実・斎藤、駒大苫小牧・田中両エースの投げ合いで、ともに一歩も引かず延長15回で引き分け再試合の末、早実が駒大苫小牧の夏3連覇を阻み、悲願の初優勝を果たしたのだ。

プロ野球が面白く感じられないのは、単に自分が年齢を重ねただけではないだろうし、昔と比べてレベルが落ちたとも思えない。高校野球の面白さは何処にあるのだろうか？野球に対する純粋なひたむきは、見ている我々の胸を熱くしてくれるし、そこには勝負を決するとはいえ、打算のない高校生の部分が見えるからではないだろうか。(実際には野球留学があったりと十分計算的なのだ)

ところでいつの日にか、わが市原市から甲子園出場を果たしてくれる学校はあるのだろうか。野球に限らず他のスポーツにおいても、そこそこ素質のある子供達は市外の学校へ進学しているのが現実であり、なんとかならんかと、感じているのは自分だけではないだろう。一つぐらゐそんな学校が市原市にあつたら、それだけでものすごく変わるような気がするし、出きる事ならもう一度高校生に戻ってやり直したいと思うのである。そんな暑い夏も過ぎ、すっかり秋真つ只中、現実に戻って明日あたり、にやうどうでも探りに行こうかな。ペッ、語聞いてから。ブルン・ブルン

「はい J.A.A.支店の〇〇です。」

「.....」

「アー 平野の〇〇のおじさんですね。はえったですね。ないだん葉はあんとねーそうですよ。だげんが花が落ちてからもう一回かけつといいてこつです。あんまはやかけたつておいねえから花が終わつてからかけてみてくれつが。」

「.....」

「それから、とりんこれねつだつば農機のメッ君にもたせつかん昼から家にいてくれつがいはい！」

「それじゃ、どうもありがと(う)さいます。」
*最後だけなぜかとても綺麗な標準語なのでした。
(戸沢里山通信員)

魚屋の戯言

喜知次が美味しい季節になりました。

とは言うものの、残念ながらこの魚が魚屋の店先に並ぶ事はあまり多くありません。理由は値段にあつて、恐らく魚屋が扱う魚の中で最も高い魚だと思ひます。

先輩の魚屋さんに聞いた話とかまぼこの材料になるほど豊富に獲れて気軽に食べられていたそうなのに、漁獲高が三十年前の八パーセントにまで落ち込んだ現在ではすっかり高級魚になつてしまつて一キロ五千円より安くなる事はありませぬ。小さいものでも三言グラム、ちよつと大ぶりと四百グラムはありますから一尾千五百円から二千円もする魚なんです。四、五人家族で一万円近くになるとさすがにそうそう売れません。私の店でも年に数回しか仕入れられないのが正直なところです。産地の中にはこの魚の事を「赤いダイヤ」と呼んでいるところがあるという話もあながち大げさとも言えないと思ひます。

吉次

喜知次とも吉次とも書いて「キチジ」と呼ばれるこの魚は日本各地で名前がそれぞれにつけられていて、「吉事」と発音が同じ事からお祝い事にも喜ばれています。

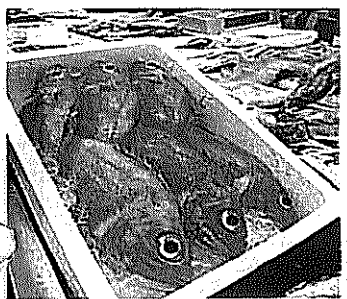
私の知るだけでも、アカジ、メイメイセン、アスナロ、メンメンなどの異名があつて関東では主にキンキと呼ばれています。

料理方法は焼き魚が煮魚がお勧めです。特に煮て食べると絶品と言ふ言葉がこれほど似合う魚も珍しいでしょう。見た目の不恰好さに似合わず、その見事なまでの白身には脂がたっぷりのつていてしかもその脂の質が実にいいので思わず顔がほころんでしまつてしまいます。

焼いて食べる時も塩焼きはもちろんの事、酒粕に二、三日漬けてから焼くと身が締まつてこれまた絶品！

なかなか手の出にくい魚ですが、お財布に余裕がある時は是非一度お試し下さい。人生の喜びが一つ増える事確実です。

(鈴木里山通信員)



全員100km完歩!

第1回いちばら100km徒歩の旅



今年初めて開催いたしました「いちばら100km徒歩の旅」は、皆様方のご支援により、参加した子供達全員が100kmを完歩する事ができました。

8月1日から4泊5日の日程でおこなわれました。旅の道は姉ヶ崎神社を南下して、寺谷、高滝、白鳥の各小学校へ宿泊、養老溪谷から小湊鉄道を使い光風台駅まで乗車し、市西小学校宿泊、国分寺・五井経由で、姉ヶ崎の出光会館がゴールです。

市内100kmを徒歩の旅です。出発当日の子供達はとても不安そうな顔をしていた。やはり親と離れる事、また100kmを歩けるのかという思いがあつたのでしよう。しかし、子供達は順応が早く、友達を作り、日を重ねることに目の輝きそして顔つきが、どんどんたくましくなつていきました。

3日目、地域の方々(あゆみ会・市原ルネッサンス・上古谷里山の会)に昼食を作つていただいたり、一緒に歩いて励ましていただいたりして、山越えの厳しい道のりも無事に通過することができました。4日目はこの旅で一番の暑さでしたが、その暑さをもととせず声を出して歩いている姿を見て、もう大丈夫だ、全員で100km完歩できると確信しました。

そして最終日。子供達一人一人の絶対完歩すると言つた強い意志により、みごとに100kmを歩ききることができました。これも一重に、多くの地域の方々のご支援(尽力によるものと関係者一同深く感謝を申し上げます)。

今後この事業を継続していこうと考えています。これからも皆様方のご支援(指導)をお願い申し上げます。
(いちばら100km徒歩の旅実行委員会)

編集後記

過疎地指南

過疎対策に苦慮している市町村は多い。そこで、最近よく目にするのが「空き家情報バンク」である。運営は、地方自治体、NPO法人、不動産業者と様々だが、要は空き家の情報をデータベース化し、田舎暮らしを考えている人(いわゆる「団塊の世代」を主なターゲットとして)に提供することにより、リタイア後の移住先の受け皿になろうというものである。

インターネットだけでなく、雑誌、テレビなどでもこういった情報提供は行なわれており、それなりの需要があることは容易に想像できる。過疎化の道をひた走っている加茂地区でも当然空き家は増えているわけで、これらの物件の状況、場所、賃料その他の諸条件を収集整理して発信することにより、加茂への移住を促せないかと考えている。

こうなると全国の過疎地が競合相手となるわけだが、千葉は気候温暖、自然災害も少なく、海の幸山の幸に恵まれ、加茂といえども買い物位なら東京は十分帰り圏内である。まして圏央道が完成すれば、羽田や成田へのアクセスは抜群に良くなる。新たな観光客を呼び込むインフラは整いつつある。こう考えれば、有利な条件は結構あるではないか。悲観していてもはじまらない。詰まる所、自分たちの住むまちの魅力を掘り起こし、価値を高め、伝えていくことが過疎対策であり観光振興なのだ。

と、いうことで「空き家情報バンク」の立ち上げを現在目論んでいます。多少時間はかかりそうですが、皆様からの情報提供をお待ちしています。

情報提供・取材依頼はお近くの通信員へメールでも受け付けます

尚、紙面及び記事に関するご意見・お問い合わせは、市原商工会議所 市原市五井中央西1-22125
TEL(22)4305 加茂支部担当 北までEメールアドレスは

kiad@icci.ichihara.chiba.jp
HPアドレスhttp://www.yo-ro-kadoya.co.jp/kamoseinenbu

次回新年号は1月20日発行予定です



HONKA H
The World's Leading Log Home

これからの理想の住まい
ホンカ・ログホーム

認定ディーラー ホンカ房総

太陽工業株式会社

代表取締役 大曾根 友三
TEL.0436-95-5641

〒290-0221 市原市馬立414-1 Fax 0436-95-2235
ホームページ www.honka-bouso.com/ Eメール log@taiyo-i.co.jp
www.honka-bouso.com

より豊かで快適な 社会環境づくりを目指して

人と環境をどこまでも大切に。実り多き未来へ、
杉田建材は、地域の皆様と共に歩み続けてまいります

杉田建材株式会社

本社ビル 市原支店

本市	社/〒290-0549	市原市	万田	野26	TEL0436(96)1311
市南	支店/〒290-0023	市原市	惣社	1-2	TEL0436(24)0511
木更津	支店/〒290-0255	市原市	牛久	450	TEL0436(50)0111
木更津	支店/〒292-0065	市原市	吾妻	2-7	TEL0438(25)4434